

令和5年度愛媛大学大学院教育学研究科心理発達臨床専攻

入学者選抜の主な変更点

令和5年度入学者選抜における主な変更点について、次のとおりお知らせします。変更点については、現時点（令和3年12月）の内容であり、今後、変更する可能性もあります。

詳細については、来年発表する学生募集要項（令和4年4月下旬公表予定）等で確認してください。

（1）選抜方法の変更

一般選抜に加え、地域の心理的支援の担い手として高い使命感と倫理観を有し、地域において心理職として勤務する希望が明確な公認心理師希望者を対象とする特別選抜を実施します。

（2）選抜方法の追加（新設）

【変更前】

専攻	募集人員
	一般選抜
心理発達臨床専攻	10人

※募集人員は、9月募集、2月募集の合計人数です。



【変更後】

専攻	募集人員※1	
	一般選抜※2	特別選抜※3
心理発達臨床専攻	10人	若干人

※1 心理発達臨床専攻の募集人員は、特別選抜の若干人を含み10人です。

※2 一般選抜の募集人員は、9月募集、2月募集の合計人数です。

※3 特別選抜の募集人員は、9月募集の人数です。2月募集では特別選抜は行いません。

（3）特別選抜の出願資格

「特別選抜」の出願資格は、一般選抜の出願資格①から⑭のいずれかの出願資格を有し、かつ次の（ア）から（エ）までの全てを満たす者としてします。なお、公認心理師受験資格に必要な科目の単位については、在学する大学で確認してください。

（ア） 大学において、文部科学省令・厚生労働省令において定める公認心理師受験資

格取得に必要な科目の単位を全て修得している者又は修得見込みの者

- (イ) 大学での成績が優秀であり、愛媛県の心理的支援の担い手として高い使命感と倫理観を有していることについて、在学する大学の学長又は学部長等の推薦があること
- (ウ) 大学における「英語」の成績の GPA 平均が 3.0 を超えていること (※1)
- (エ) 本学大学院修了後に愛媛県内において心理職として勤務する希望が明確であること

※1 英語 GPA 算出の対象となるのは、所属学部・学科等の教養教育等で、必修又は選択必修と指定されている全ての「英語」科目 (4 単位以上) です。「英語」科目では、必ずしも科目名称に「英語」を含んでいる必要はありませんが、授業内容は、受講者の英語力を育成する内容である必要があります。

英語 GPA を算出する際には、秀の GP を 4、優の GP を 3、良の GP を 2、可の GP を 1、不可の GP を 0 とし、「英語」科目の単位数にこの GP を乗じて合計し、それを単位数の合計で除します。なお、所属大学の成績の評語が、秀、優、良、可、不可ではない場合は、これらに相当する評語の GP で計算してください。

(4) 特別選抜の出願書類

入学願書、受験票・写真票、写真、卒業 (修了) 証明書または卒業 (修了) 見込証明書、推薦書 (出願資格 (イ) について在学する学長又は学部長等が作成したもの)、自己推薦書 (出願資格 (エ) の希望を確認するもの)、学位授与証明書 (該当者のみ)、成績証明書、英語 GPA 報告書、研究計画書、公認心理師受験資格の単位修得状況を確認できる書類、住民票の写し (日本に在住する外国人)、検定料払い込み証明書、受験票等送付用封筒、志願者名票

(5) 特別選抜の試験及び配点

選抜区分	外国語 (英語)	専門科目 (心理学)	口述試験*1	書類審査 (推薦書・ 自己推薦書)	合計
特別選抜	—	200点	100点	100点	400点

*1 研究計画書の試問を含む

(6) 特別選抜の採点・評価基準

科目等	採点・評価基準 (一般的基準)
専門科目 (心理学)	心理学の専門知識を評価します。
口述試験	心の健康に関わる高度職業専門人としての意欲・課題意識・分析力及

	びコミュニケーション能力を評価します。
書 類 審 査 (推薦書・自己推薦書)	公認心理師への意欲, 愛媛県における心理的支援の担い手としての使命感及び倫理観について評価します。

(7) 特別選抜の合否判定基準

一般選抜・特別選抜それぞれにおいて総合点で合否を判定するとともに、同点者は同順位とします。

なお、教育学研究科で学ぶために必要不可欠な資質を評価・審査するため、合格者が募集人員に満たない場合があります。